

内野新体制スタート

新しい発想で新しい海老名を創る



花束を受け、初登庁の内野優市長（12月24日）

「12万市民のために」が原点 市長就任 初登庁で 市政の使命、職員に訓示



就任式であいさつする内野市長

去年11月9日に行われた市長選挙で当選した内野優新市長（48）が、12月24日初登庁しました。市役所玄関で記念の花束を受け取った内野市長は、出迎えた大勢の市民や職員に向かって笑顔を見せるとともに、12万市民の信託を担っていく責任の重さを改めて感じていました。

●市長訓示（要旨）

本日、海老名市長に就任しました内野優です。これから4年間、よろしく願います。今日、市役所に登庁し、12万市民の期待と希望を担っていく市長の重い責任を全身で感じました。この場では、市政に対する私の基本的な考え方を述べ、就任のあいさつに代えます。

まず、市政の使命は、市民のみなさんに安全で快適なまちづくりを提供することであり、常に「市民のため」が原点であります。職員のみなさんは、自分たちの仕事は市民のためにあることを、再認識していただきたいと思っています。

決断は市長

見直し・改革の
材料の提起を

最近の地方分権の流れ、国の三位一体の改革など、地方自治体を取り巻く状況の変化に伴い、地方が変わろうとしています。海老名も変わらましよう。私はみなさんと一緒に知恵と発想を出し合い、市民のみなさんが本当に夢が持てる「住んでよかつ

た」と言えるまちにしていきたい。地方分権の中で「自立都市海老名」を創り上げていきたいと思っています。

私は、市役所の仕事は総合サービス企業体だと思います。費用対効果を考えた見直し・改革が必要です。その改革の意思と勇気を、みなさんに持っていていただきたい。改革には多くの反発を伴いますが、私は、職員のみなさんにそのリスクを負えといっているではありません。リスクを負って決断するのは私であり、みなさんには、決断するための材料をいただきたいと思っています。

ご苦労さま 亀井前市長が退任

平成7年から2期8年にわたって海老名市政を担ってきた亀井英一前市長（71）の退任式が、去年12月22日、市役所で行われました。あいさつの中で亀井市長は、「長いようで短い任期でした。楽しく仕事をさせてもらった分、周囲の人たちに無理を強いたと思うが、その人たちへの感謝の気持ちは忘れたことがありません。海老名が好きだから、この8年間頑張れたと思います。自分の住んでいるまちを好きにならずに、何が改革、何が発展という思いがありました。この思いは不可欠で、職員のみなさんも、自分を取り組んでいる仕事についての、自分なりの理念やビジョンを日ごろから互いに話そう、今後心掛けてほしい」と話しました。

式後、玄関出る亀井前市長に花束が贈られ、大勢の職員や市民が拍手で見送る中、市役所を後にしました。

亀井前市長は、「人づくりこそ

私は今回の選挙で、34項からなる政策宣言マニフェストを掲げ当選しました。「そんなことができるのか？」という人もいます。しかし私は1年でできないものは4年かけてもできないと思います。できる、できないということではなく、実現するためにはどうしたらよいか、ということに、みなさんの知恵と能力を貸してほしい。新しい発想で新しい海老名を創ることを考えてほしいと思います。

「人を以て言を廃せず」

住みたいまち実現めざし

よく「内野さんの短所は？」と聞かれます。いろいろありますが、長所より短所のほうが多いと思います。この4年間は、論語にある「人を以て言を廃せず」という言葉をかみしめて

「人づくりこそまちづくり」に2期8年



職員に見送られて退庁する亀井前市長（左）

まちづくり」をモットーに、新たな行政改革大綱を策定し、職員の意識改革、機構改革にも積極的取り組み、市民参加型の行政運営、効率的・効果的な行政運営を行ってきました。

長年の懸案であった海老名駅前開発の推進、かしわ台駅跨線橋の架設、北部公園・伊勢山自然公園の開設、海老名警察署の開署による地域防犯体制の確立を図ってきました。また、市の

環境問題では、環境基本計画の策定、ISO14001の認証取得、リサイクルプラザの建設などを実施しました。また、保健福祉対策では、地域福祉計画の策定に着手し、小児救急医療センター設置に大きな役割を果たしました。その他にも、中小学校の整備や、ホームページの開設、コミュニティバスの試験運行など、多くの問題・課題の解決に成果を上げました。

約 9億3000万円 削減

～平成12～14年の3年間で～

行政改革効果まとまる

市では、経費節減と市民サービスの向上を目指して行政改革を進めています。このほど「第3次海老名市行政改革大綱」（平成12～14年度）の効果をまとめたのでお知らせします。

この大綱は、平成11年度末に策定したもので、「行政運営の効率化」「時代に即応した執行体制の確立」「市民参加と地方分権の推進」の3つを基本方針に推進してきました。その結果、83の改革推進項目のうち95%にあたる79項目について達成することができ、約9億3000万円の財政的削減効果を達成しました。

このうち、最も効果があつたものは「公共工事のコスト削減」で、工事の計画設計や工事使用材料の見直しなどにより約4億3600万円を削減しました。次いで効果のあつた「人件費の削減」は、臨時職員の活用や技

第3次行政改革推進計画の実施状況

年度	推進項目数	新規追加項目数	実施項目数	未実施項目数	実施率
12年度	65		45	20	69%
13年度	78	13	70	8	89%
14年度	83	5	79	4	95%

海老名市の行政改革の財政効果

（単位：千円）

区 分		12年度	13年度	14年度	合計
総 額		374,329	359,055	197,898	931,282
項 目	人権費削減 (削減人数)	207,885 (20人)	111,613 (14人)	37,160 (5人)	356,658 (39人)
	公共工事 コスト削減	147,173	178,454	110,738	436,365
	補助金廃止・ 削減	6,701 (14件)	16,181 (14件)	3,909 (3件)	26,791 (31件)
	民間委託	5,814	7,088	40,750	53,652
	その他の 改革・改善	6,756	45,719 (使用料等)	5,341 (使用料等)	57,816 (使用料等)